

令和2年度 学校経営計画・学校評価

□4月6日提出 □10月16日提出 ☑3月29日提出

学校番号	49	清水	高等学校	課程	定(夜)
------	----	----	------	----	------

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働
学校像	○生徒一人ひとりを大切に、生徒の興味関心、進路希望に応えることのできる学校 ○保護者や地域に信頼され、生徒及び教職員が誇りと自信を持てる学校	目指すべき姿を実現するための取組等	○学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を目指した授業改善 ○自尊感情や自己肯定感を高める体験学習の実施 ○地域関係機関と連携した生徒支援体制の構築 ○「定時制通信」や「夜光虫」を活用した定時制教育の理解を深めるための地域への情報発信
生徒像	○様々な困難を克服することのできるたくましい生徒 (1)生きていくための基礎学力と人を思いやる心や態度を身に付けた生徒 (2)社会のマナーを守り礼節を重んじ、コミュニケーション力を備えた明るい生徒		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
定時制通信や夜光虫(文集)を通して生徒の成長を感じています。教職員の方々の学力向上への取組み、その姿勢、教育への情熱は高く評価いたします。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
定時制通信などを通して、社会性の育成・生徒理解・生徒支援などの取り組みがなされていることを知ることができます。卒業式に参加する生徒の姿勢・態度からもその成果を確認することができました。	
【チーム学校】	評価 【 A 】
来校する度に、生徒たちの学校生活や先生方との交流を通して、生徒達の成長を感じます。教職員全員が生徒一人ひとりの特性や状況を理解し支援をしてくださった成果だと思います。	

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力的向上	令和元年度末 ①オリジナルアンケート 問9 66.6% ②出席率 90.4% 授業参加率 85% ③学校評価アンケート ・「あなたは本校に入塾してよかったと思いますか」 62% ・「あなたは本校の授業内容に満足していますか」 85% 目標 ①オリジナルアンケート問9の肯定的な回答 80% ②出席率 90% 授業参加率 90% ③・「あなたは本校に入塾してよかったと思いますか」 85% ・「あなたは本校の授業内容に満足していますか」 85%	・基礎学力定着に向けた補助教材の改善。 ・個々の学力に応じた個別指導を工夫する。 ・各教科で長期休業中の課題を工夫する。 ・各学期ごとの面談週間や1学期末保護者面談を実施する。	A ・オリジナルアンケート(第1回)問9「授業はよく理解できている」の肯定的な回答 90% 【1学期終了時】 出席率 85.4% 授業参加率91.8% 目標を達成	出席率は休学生を含んだ数値であり、休学生を除くと94%となり、出席率・授業参加率とも目標を達成している。 無断での遅刻・早退を繰り返す生徒がいるが、家庭との連絡を密にし、指導を継続していきたい。	B ・評価指標となる目標値については、①80%②③は90%以上であり、目標をほぼ達成することができた。 ・学習に取り組む態度は向上しているが、基礎学力の定着という点については疑問が残る。	基礎学力の定着を目指し、基礎的な知識が習得できるような指導や個々の生徒に対応した教材研究に取り組む。
社会性の育成	令和元年度末 オリジナルアンケート 問22 91.6% 問27 83% 学校評価アンケート ・「本校の学校行事は楽しく満足いくものですか」 85% 目標 ①オリジナルアンケート肯定的な回答 問22 90% 問27 90% ②学校評価アンケート ・「本校の学校行事は楽しく満足いくものですか」 85%	・総合的な学習の時間を活用して仲間づくりや人間関係作りの機会を多く設定する。 ・異年齢交流活動や体験学習を実施する。 【環境保全活動・文化芸術体験・郷土料理・新入生歓迎遠足・秋の遠足・卒業生を送る会】	B ・オリジナルアンケート(第1回)問22「相手の気持ちを考えて行動する」90% 問27「最後まで考えたり、行動する」70% 目標をほぼ達成	問27の結果からもわかるように「最後までやり遂げる力」が弱い。多くの行事や体験学習が中止となっていることも関係していると考えられる。授業や体験学習等において、達成感や成功体験を得られるよう工夫していきたい。	B ・評価指標となる目標値については、①問22は90%問27は80%②は90%であり、目標をほぼ達成することができた。 ・「やり抜く力」に比べてコミュニケーション能力「かわる力」の向上が低い。	コミュニケーション能力の向上を目指して、授業や学校行事等において、他者とかわる場面を多く設定することや自信を持つことのできる活動となるような「仕掛け」を工夫する。

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	令和元年度末学校評価アンケートの結果と今年度の目標 ・「あなたは本校の授業内容に満足していますか」 85% → 目標90% ・「あなたは授業中の教材や教え方の工夫を努力している先生が多いですか」 77% → 目標85%	・目的やねらいを明確にし「わかる」授業 ・地域への公開授業を実施 ・教員間で生徒情報を共有し、個別支援を継続する。 ・全教員で中学校の公開授業への参加	B 【7月実施アンケート】 ・「勉強のやり方がよくわからない」 11% ・「授業がよくわからないことが多い」 33%	・教員間で生徒情報を共有し、個別指導・支援を継続する。 ・目的やねらいを明確にした授業展開や授業改善を行う。 ・課題等を確実にこなす取り組みを徹底する。	B ・評価指標については、2つとも90%以上となり目標を達成。 ・「教材や教え方の工夫」についての回答は100%であることから、個々の生徒に応じた学習指導がなされていると考えられる。	今年度の目標は達成したが、基礎学力の定着を目指した取り組み(基礎的な知識の習得・個々の生徒に応じた教材づくり)をさらに強化していく。
生徒理解 生徒支援	令和元年度末学校評価アンケートの結果と今年度の目標 ・「あなたは本校に入塾してよかったと思いますか」 62% → 目標85% ・「生徒指導について、どの教員も同じ基準で指導していると思いますか」 85% → 目標85%	・アセスを活用した校内研修(年間2回) ・登校時における挨拶指導と生徒観察 ・地域関係機関との定期的な情報交換 ・各学期ごとの面談週間や1学期末保護者面談の実施	A ・特性を持った生徒への支援に関する校内研修やSCを講師としたアセス分析会、外部機関を利用した職業適性検査の結果から、生徒一人ひとりの情報を共有し、共通理解を図ることができた。	・はたサポを利用した生徒理解・生徒支援に関する校内研修は大きな成果が得られた。来年度に向け、実施学年・時期等を検討していきたい。	A ・評価指標の2つについては90%以上となり目標を達成。 ・はたサポとの連携や生徒支援・理解に関する研修などにより、組織的な支援ができたと考えられる。	・関係機関と連携し、個々の生徒に応じた支援・指導を継続する。
学校の振興	令和元年度末学校評価アンケートの結果と今年度の目標 ・「本校の学校行事は満足いくものですか」 85% → 目標85%以上 定時制教育振興会の活動を維持する。	・地域関係機関との定期的な情報交換 ・異年齢交流活動の実施 ・体験学習の実施 ・「定時制通信」「夜光虫」の発行	A ・コロナ禍において、多くの体験学習が中止となる中、郡体参加者が昨年度より大幅に増加し、競技において活躍した。	・昨年度より郡体参加者が増加した。日程を早期に周知したこと。大会参加の意義を各教員が様々な場面で伝えていったことが要因として考えられる。上記の2点に留意し、今後の体験学習等の参加者を増加させたい。	B ・学校行事の満足度は、90%となり目標を達成。 ・地域への情報発信(定時制通信など)により、理解と協力は得られたが、参観授業が実施できなかったことは非常に残念である。	・体験活動を通して、「やり抜く力」「新しいことにチャレンジする(資格試験など)力」を伸ばすことに繋げていきたい。
働き方改革	現状 ・出張時や休暇取得時に、業務分担や時間割変更が円滑に行えるなど、教員間の協力体制ができていく。 目標 ・年次有給休暇取得15日以上	・協力体制を維持し、業務に対してチームとして取り組む。 ・出張時等において、時間割変更をできる限り行い、自習時間をつくらない。	A ・教員間の協力体制が確立されており、出張・年休等における時間割変更が円滑に行われている。 ・日常的に教員間において、生徒情報や業務に関する意見が交換され、生徒支援や業務に活かされている。	風通しの良い職場が形成されており、業務に対する協力体制が確立されている。	A 目標①年次有給休暇取得15日以上はほぼ達成。 ・風通しの良い職場が形成されており、業務に対する協力体制が確立されている。	・風通しの良い職場、業務に対する協力体制を維持する。